

2009年9月9日

厚生労働大臣

舛添 要一 様

厚生労働省健康局長

上田 博三 様

医薬食品局長

高井 康行 様

新型インフルエンザ対策についての申入れ

冠省

2009年4月24日に米国で発生した新型インフルエンザは、日本では、無駄な検疫、「発熱外来」などによる医療現場の混乱、感染した高校生や感染が疑われる人に対する数多くの人権侵害問題などの社会問題を引き起こしました。しかし、新型インフルエンザの実態は、感染力は強いものの、病原的には弱毒であり、予後は良いことなどから、一般的には季節性のインフルエンザ対策と大きく変える必要はないことが明らかになっています。

ところが、舛添厚生労働大臣は、1700万人分の新型のワクチンでは足りないとして、接種の優先順位を決めることと、足りない分は輸入してでも補うとの「宣言」を行い、国家危機管理課題として、新政権に対しても同様の対応をするよう求めていると報道されています。

一方、海外のワクチンを国内で使用する場合に臨床試験を省略することが検討されており、副作用被害の危険性も指摘されていることから、民主党は輸入ワクチンには安全性に疑問があるとして、臨床試験の促進と副作用被害救済制度の補償の拡充のために、予防接種法をはじめとする法制度の改正も視野にいたした対策をうちだすとの報道がされています。

新型インフルエンザは「かかるとはいけない病気」とされ、「国家危機管理」とされていますが、恐怖の連鎖と過剰な防衛志向により、今後ますます人権侵害、社会的混乱と多大な損失を増幅させていくことが懸念されます。

私たちは長年、感染症対策について市民の立場から取り組んできましたが、このたび、新型インフルエンザ市民対策会議発足し、以下の点について、緊急に申し入れと質問をさせていただきたく存じます

一 申入れ事項

- 1 新型インフルエンザ対策を危機管理課題としてではなく、感染症対策としてとらえるよう要望します。感染症と人類が共存してきた過程と過去の感染症対策を冷静かつ科学的、常識的に分析しつつ、国内外を含めた新型インフルエンザの実態につ

いての情報収集、情報公開を求めます。

- 2 必要な人に必要なワクチン、避けられない副作用には「疑わしきは救済」を原則とし、迅速かつ十分な補償を求めます。
- 3 現在の新型インフルエンザが人口の過半数に接種して防疫できるかは不明ですが、弱毒性であり、予後がよいことから、接種は希望者が納得した上で接種することを基本とすること。(その意味では優先順位づけは一定の意味を持ち得ます)。
- 4 それ以上の勧奨を行う場合は、説得的な根拠が必要であると考えます。新型インフルエンザワクチンの臨床の結果を情報公開することを求めます。
- 5 接種の現場では医師がなぜ、その人にそのワクチンを推奨できるかを説明した上で接種を行うことができるようにしてください。医療機関や保育所や幼稚園だけでなく、学校現場で接種の強制や半強制が起きないように、文部科学省との連携を密にしてください。
- 6 今回の輸入案に反対します。輸入が必要であるとの根拠が不明です。仮に輸入が必要であるとの積極的根拠があるのであれば、副作用患者を診察した医療機関が即刻報告をあげることを義務付けるなど特例的な情報収集・監視体制をとること、あるいは市販直後調査、全数調査などを実施するなど万全の策を講じるなど、国産と同様の手続きと安全性を担保することを求めます。
- 7 今回特に接種優先対象とされた妊産婦への接種について対応を再考することを求めます。
(質問事項3への回答をお願いします)。
- 8 重症例の地域ぐるみのサポート体制を整えることを求めます。
- 9 新型の効果判定の意味でも、徹底的なサーベイランス [事後追跡調査] を義務付けてください。

二 その他 質問事項

- 1 今年度は季節性インフルエンザワクチンが4000万人分製造され、新型ワクチンが1800万人分製造されたといわれています。ワクチン接種を希望する場合、季節性インフルエンザワクチンと新型インフルエンザワクチンのどちらを接種することを推奨されるのでしょうか。
- 2 今期の4000万人分もの製造量を決定した経緯と余った場合の処理について教えてください。
- 3 今回特に接種優先対象とされた妊産婦への接種については接種の必要性和胎児への影響も含めた安全性のデータについて詳細な説明を求めます。また、産婦人科学会はタミフルの予防投与を主張していますが、予防投与を支持される場合には、効果を実証したデータをお示しください。
- 4 今回感染した人は、新型インフルエンザに対する免疫を獲得したと考えられますが、

この人たちにも接種を勧めるのでしょうか。

以上。

新型インフルエンザ市民対策会議発足委員会

委員長 母里 啓子（元国立公衆衛生院疫学部感染症室長）

事務局長 青野 典子（ワクチントーク事務局）

代表世話人 古賀 真子（ワクチントーク事務局）

代表呼びかけ人 松谷 清（静岡市議会議員）

（呼びかけ人）

片山いく子（春日部市議会議員）福士敬子（都議会議員）前田かおる（江東区議会議員）吉原賢二（東京予防接種被害者の会）毛利子来（小児科医）富山洋子（NPO 法人日本消費者連盟代表運営委員）平野敏夫（医師・ひらの亀戸ひまわり診療所）栗原敦（MMR 被害児を救済する会）林敬次（医療問題研究会代表）松尾ゆり（杉並区議会議員）武藤有子（中野区議会議員）飯田勝泰（特定非営利活動法人東京労働安全衛生センター事務局長）片野令子（練馬区議会議員）江本浩二（静岡県沼津市議会議員）大嶋薫（札幌市議会議員）稲村和美（兵庫県議会議員）中川健作（米子市議会議員）高橋登（泉大津市議会議員）宮澤圭輔（静岡市議会議員）野々上愛（高槻市議会議員）渡辺さと子（香川県議会議員）久保あつこ（旭川市議会議員）猪股和雄（久喜市議会議員）蛇石郁子（郡山市議会議員）佐藤和良（いわき市議会議員）朝倉幹晴（船橋市議）東敦子（渋谷区議会議員）森典子（逗子市議会議員）井筒たかお（加古川市議）井上さちこ（広島県廿日市市議会議員）神田公司（熊本県合志市議会議員）増田京子（箕面市議会議員）瀬野喜代（荒川区議会議員）吉野信次（前松戸市議）植田真紀（高松市議）丸尾牧（兵庫県議会議員）橋本久雄（小平市議会議員）八木さとし（大町市議会議員）矢澤江美子（埼玉県八潮市議員）のぐち英一郎（鹿児島市議）松尾京子（高石市議会議員）加納好子（宮代町議員）漢人明子（東京都小金井市議）野村羊子（三鷹市議会議員）陣内やすこ（八王子市議会議員）永井俊作（明石市議会議員）井奥まさき（高砂市議会議員）酒井一（尼崎市議会議員）横田えつこ（岡山県議会議員）鬼木のぞみ（岡山市議会議員）山下富美子（沼津市議会議員）大石和央（牧之原市議会議員）大塚邦子（吉田町議会議員）津田恵子（前島田市議会議員）続博治（鹿児島県児童クラブ連絡協議会事務局長/元隼人町）中山均（前・新潟市議）吉川ひろし（千葉県議・無所属市民の会）小山広明（大阪府泉南市議）片山薫（小金井市議会議員）武笠紀子（前松戸市議会議員）

新型インフルエンザ市民対策会議の発足の呼びかけ人、賛同人のよびかけと厚生労働大臣、厚生労働省健康局長、医薬食品局長に対する申し入れについて

新型インフルエンザ市民対策会議発足委員会

1 発足の経緯

1 2009年4月24日に米国で豚インフルエンザに7人が感染したことに端を発した、新型インフルエンザ問題は、メキシコでの数10名の死亡が報道されるや H1N1の「新型」の出現として、全世界を恐怖におとしいれました。

その後、日本では、無駄な検疫、マスク、「発熱外来」など医療現場の混乱、感染した高校生や感染が疑われる人に対する数多くの人権侵害問題などの「新型インフルエンザパニック」が起きました。しかし、新型インフルエンザの実態は、感染力は強いものの、病原的には弱毒であり、予後は良いことなどから、一般的には季節性のインフルエンザ対策と大きく変える必要はないことが明らかになっています。

2 ところが、舛添厚生労働大臣は、1700万人分の新型のワクチンでは足りないとして、接種の優先順位を決めることと、足りない分は輸入してでも補うとの「宣言」を行い、国家危機管理課題として、新政権に対しても同様の対応をするよう求めていると報道されています。厚生労働省は「基礎疾患をもった者」の定義をつくるべく、各医学界の代表者等を集めて意見交換会を開催し、必要量を確定した上で輸入を決定するためのパブリックコメントを国民に求めようとしています。

3 一方、海外のワクチンを国内で使用する場合に臨床試験（治験）を省略することが検討されており、副作用被害の危険性も指摘されていることから、民主党は輸入ワクチンには安全性に疑問があるとして、臨床試験の促進と副作用被害救済制度の補償の拡充のために、予防接種法をはじめとする法制度の改正も視野にいたした対策をうちだすとの報道がされています。

4 インフルエンザが、特定の病気について基礎疾患をもった人や乳児、高齢者にとって怖い病気であることは事実ですが、インフルエンザワクチンの効果については季節性のものについても限界があることは歴史の証明するところです。日本ではこうした人を守るために、健康な学童に集団接種を続けて副作用を起こしたという苦い経験があります。

今回の国産の新型ワクチンはウイルスの増殖が悪かったために、うまく製造量を満たせなかったとされています。新型インフルエンザ対策の重鎮である、田代氏は意見交換会で、「掛け捨て保険として、使わなくても輸入が必要」との発言をされていますが、これほどまでに、「かかるとはいけない病気」とされ、「国家危機管理」とされた

新型インフルエンザ対策は、恐怖の連鎖と過剰な防禦志向により、今後ますます人権侵害、社会的混乱と多大な損失を増幅させていくことが懸念されます。

私たちは長年、市民のための感染症対策について市民の立場からネットワークをつくりながら取り組んできました。

私たちは以下の目標の下、行動を呼びかけることにいたしました。急な立ち上げですが、第1回の行動として、政権交代の中、2009年9月9日に健康局長への申入れを予定しています。多くの皆さまが今回の活動に参加してくださいますようお願いいたします。

委員会の呼びかけ人、賛同人として連名してもよいという方、健康局長への申入れに連名してよいという方、別紙1に記入の上、事務局までご連絡ください。

2 目標ならびに活動

- 1 新型インフルエンザ対策を危機管理課題としてではなく、感染症対策としてとらえる。
- 2 感染症と人類が共存してきた過程と過去の感染症対策を冷静かつ科学的、常識的に分析しつつ、新型インフルエンザの実態についての情報収集、情報公開を求めることにより、市民としてどう向かい合うかの情報を広く共有する。
- 3 新型インフルエンザ対策についての責任機関（立法、行政、地方自治体ほか）に対するの質問・提言を通して、市民の立場から適切な対応を求める。
- 4 マスコミに対して市民の立場から意見を発信する。
- 5 上記の情報共有体としての呼びかけ人、賛同人を募ることにより、より多くの市民の参加を呼びかける。

3 基本的立場

- 1 インフルエンザワクチンの接種に賛成、反対という短絡的立場をとるものではありません。「必要な人には必要なワクチン、避けられない副作用には「疑わしきは救済」を原則とし、迅速かつ十分な補償を求めること」。
- 2 現在の新型インフルエンザが人口の過半数に接種して防疫できるかは不明ですが、弱毒性であり、予後がよいことから、接種は希望者が納得した上で接種することを基本。（その意味では優先順位づけは一定の意味を持ち得ます）。
- 3 それ以上の勧奨を行う場合は、説得的な根拠が必要であると考えます。当然のことですが、まず、新型インフルエンザワクチンの臨床試験の結果を情報公開し、なぜ、新型ワクチンを推奨できるかを厚生労働省として丁寧に説明してもらおう。

それ以上に輸入が必要であるのであれば、国産と同様の手続きと安全性を担保することを要請する。

- 4 接種の現場では医師がなぜ、その人にそのワクチンを推奨できるかを説明した上で接種を行うことができるようにする。
- 5 新型インフルエンザに対するワクチンの効果判定の意味でも、徹底的なサーベイランス（事後調査）を義務付ける。接種する際には、医師は予診時に、対象者がどのようなワクチンをいつ接種してきたか、ワクチン接種歴を必ず確認するよう要望する。

三 厚生労働省、健康局長、医薬食品局長への申入れ事項

[別紙] 参照

新型インフルエンザ市民対策会議発足委員会

委員長	母里 啓子（元公衆衛生院感染症対策室長）
事務局長	青野 典子（ワクチントーク事務局）
代表世話人	古賀 真子（ワクチントーク事務局）
代表呼びかけ人	松谷 清（静岡市議会議員）
呼びかけ人	片山 いく子（春日部市議会議員）
	中村 まさ子（江東区議会議員）
	福士 敬子（都議会議員）
	前田 かおる（江東区議会議員）
	吉原 賢二（東京予防接種被害者の会）
	毛利 子来（小児科医）
	富山 洋子（日本消費者連盟代表運営委員）
	平野 敏夫（医師・ひらの亀戸ひまわり診療所）
	栗原 敦（MMR 被害児を救援する会）
	片野 令子（練馬区議会議員）
	稲村 和美（兵庫県議会議員）
	東 敦子（渋谷区議会議員）
	矢澤 江美子（埼玉県八潮市議員）

（賛同人）

高木泰子（小児科医）江本浩二（静岡県沼津市議会議員）大嶋薫（札幌市議会議員）中川健作（米子市議会議員）高橋登（泉大津市議会議員）宮澤圭輔（静岡市議会議員）野々上愛（高槻市議会議員）渡辺さと子（香川県議会議員）森典子（逗子市議会議員）のぐち英一郎（鹿児島市議）松尾京子（高石市議会議員）加納好子（宮代町議員）漢人明子（東京都小金井市議）野村羊子（三鷹市議会議員）陣内やすこ（八王子市議会議員）永井俊作（明石市議会議員）井奥まさき（高砂市議会議員）酒井一（尼崎市議会議員）横田えつこ（岡

山県議会議員) 鬼木のぞみ (岡山市議会議員) 山下富美子 (沼津市議会議員) 大石和央 (牧之原市議会議員) 大塚邦子 (吉田町議会議員) 津田恵子 (前島田市議会議員) 続博治 (鹿児島県児童クラブ連絡協議会事務局長/元隼人町) 中山均 (前・新潟市議) 吉川ひろし (千葉県議・無所属市民の会) 小山広明 (大阪府泉南市議) 片山薫 (小金井市議会議員) 井筒たかお (加古川市議) 八木さとし (大町市議会議員) 井上さちこ (広島県廿日市市議会議員) 神田公司 (熊本県合志市議会議員) 増田京子 (箕面市議会議員) 瀬野喜代 (荒川区議会議員) 吉野信次 (前松戸市議) 植田真紀 (高松市議) 丸尾牧 (兵庫県議会議員) 橋本久雄 (小平市議会議員) 久保あつこ (旭川市議会議員) 猪股和雄 (久喜市議会議員) 蛇石郁子 (郡山市議会議員) 佐藤和良 (いわき市議会議員) 朝倉幹晴 (船橋市議) 武笠紀子 (前松戸市議会議員) 林敬次 (医療問題研究会代表) 佐藤ひろこ (中野区議会議員) 阿部悦子 (愛媛県議会議員) 高橋みさこ (廿日市市議)

伊藤一重

斎藤邦雄

*事務局は当面の間ワクチントーク事務局におく

[連絡先]

〒143-0023 東京都大田区山王4-1-16 青い保育園

青野 典子

Tel・ファックス 03-3777-1946

古賀 真子

携帯Tel 090-2470-5256